

赤塚公園自然観察会 観察会報告

(報告者：後藤輝昭、福嶋信博)

観察日：2016年12月11日(日)

観察場所：浮間公園 入口広場 (10時集合) → 風車 → サービスセンター → 小鳥の森 (バー
ドサンクチュアリー) → 荒川堤防 → 水生植物園 → 浮間公園入口広場 (12時頃解散)

参加者：(7)鴨志田さち子、(401)関口健治、(504)手塚照代、(509)佐藤滋子、(941)後藤静子、
(956)内田利秋、(957)後藤輝昭、(2508)三宅祥子、(2701)福嶋信博、(2801)福嶋雅子
10名 (敬称略)

浮間公園方面の観察会は久しぶりだったので12月5日に手塚、後藤、福嶋で事前の下見をして
から、観察会を実施しました。

観察会当日は公園の入り口に集合した後、佐藤さんが持参したヤマノイモとオニドコロを見せて
もらい、また、ギンナンを配って頂きました。



オニドコロ



ヤマノイモ



下見で確認した生き物の資料を配布し、また、サービスセンターの資料「浮間公園野鳥図鑑」「浮
間公園で見られる野鳥たち」「浮間公園野鳥カレンダー」「水・花・緑と自然に囲まれた総合ファ
ミリーパーク 都立 浮間公園」を参考にしながら、浮間ヶ池に沿って観察しながら歩き、荒川の
土手まで行きました。

○池の周りでは



植え込みにはツツジの花



バン



オオバン



コサギ



ユリカモメ



カワウ



オナガガモ



キンクロハジロ



ホシハジロ

この中のユリカモメは、伊勢物語の在原業平が平城(なら)から東国に下り隅田川で見た鳥を、都を偲んでミヤコドリと呼んだといわれ、このことから東京都の鳥に指定されている。

「・・・白き鳥の嘴(はし)と脚と赤き、鴨の大ききなる、水のうへに遊びつつ魚(い)をくう。京には見えぬ鳥なれば、皆人見知らず。渡守に問ひければ、「これなむ都鳥」といふをききて、名にし負はばいざこととはむ都鳥わが思ふ人はありやなしやととよめりければ、舟こぞりて泣きにけり。」(伊勢物語より)

○荒川の土手には



セイヨウタンポポ



ホトケノザ



アカツメクサ



コセンダングサ



ヘラオオバコ



セイタカアワダチソウ



ヤマトシジミ



ベニシジミ



アカタテハ



荒川土手の上から見た富士山

○荒川堤防から浮間ヶ池に戻る



カワセミ



ネズミモチ



トウネズミモチ 葉脈：側脈が透けて見える

○水生植物園から入り口広場への池沿い



カツラの袋果：翼のある小さな種が入っている

集合写真



次回は3月5日 赤塚公園（梅が見頃か？） 10：00 美術館前集合